

表15 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男 年齢:33 精神発達遅滞	地域:(浅井)			国籍等:日本 外傷1 外傷2 その他	平成22年3月31日現在 IDNo.2147
	精神機能	運動機能	視覚・聴覚		
心身機能・身体構造	軽度知的障害があり、判断能力に遅れがある	問題なし	問題なし	その他	-
実行状況(している) 能力(できる)	可 歩行	ADL 自立	家事 母が行う	職業能力 民間企業にて障害者就労 お給料は遊びで使い切つて母に小遣いをもらう	その他
実行状況(している) 能力(できる)	可 一般就労・就学	福祉施設等の利用 通勤奈	自宅で行う意欲はないが 支援があれば可能 趣味等 ゲームセンター、携帯サイ ト	問題なく勤務できている 問題なく勤務できている 地域活動 不明	金銭管理が適切には出来ない(兄が後見人) ない(兄が後見人)
実行状況(している) 能力(できる)	一般就労(障害者枠)	通勤奈	通勤奈	地域活動 不明	その他
利用している福祉用具	勤務は問題なくできている	問題なく出来ている	適切には出来ない	不明	-
物的環境	あるが利用していない福祉用具	あるが利用したい福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況 他の特筆すべき物理的環境	-
環境的人的環境	家族の支援 友人ととの交流・支援 勤務先の友人などと交流 あり	近隣との交流・支援 勤務先の友人などと交流 あり	関係者との交流・支援 支援者との関係は良好	現在は通勤奈 通勤奈から勤務先まで1時間以上かかる ボランティア等その他の人的交流・支援	通勤奈から勤務先まで1時間以上かかる
社会環境	母高齢で接遇あり、兄弟近隣に居住。兄は後見人となっている	あるが利用していない制度 あるが利用している公私のサービス	利用している公私のサービス あるが利用していない制度	あるが利用していない公私のサービス あつたら利用したい制度・サービス	-
個人因子	(生活観)実現したい生活 住み慣れた町で自立して 生活したい	療育C、成年後見制度 - 不明	通勤奈 独自の生活習慣等 不明	未解決の生活上の問題 金銭管理ができない、 保健関係者	その他の特記事項 福社関係者
会議参加状況	本人 参加	家族 母、兄	私的関係者 勤務先の上司	-	通勤奈、就業・生活支援センター、相談支援、福祉課
会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望				
会議の検討事項・結果	就労し収入もあるが、金銭管理が十分には出来ず母に小遣いをもらなうなどしていたが、母も高齢で疾患あり先のことに不安あり。本人が自立して生活していくよう、生活スキルをあげるために、通勤奈を利用することとどなったため、今後の支援体制について役割分担を行う				
会議開催の理由・背景	会議開催では生活面での支援受け、本人も意欲的に生活していくよう、引き続き一宮市での支援者との関係は継続し、関係者で連携とりながら見守つていたための役割分担が出来た。				

表16 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別：男		年齢：52	地域：浅井	国籍等：日本	平成22年4月21日現在	IDNo.2201
健常	精神発達遅滞	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
心身機能・身体構造	重度知的障害あり 精神的に不安定している	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
実行状況(している) 能力(できる)	可	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
実行状況(している) 能力(できる)	可	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
参加	一般就労・就学	食事や排泄等ほぼ自立	家族が行っていた	授産施設で作業を行っている	両親の精氣により短期间人所と弟の援助で生活している。	両親の精氣により短期间人所と弟の援助で生活している。
物的環境	過去にも経験なく、おそらく通いなれたところに安定して通える	排泄の失敗時、洗髪などは支援が必要	不明	軽作業等、支援があれば可能	不明	不明
環境因子	利用している福祉用具	知的通所授産、短期入所	喫茶店へ行く	不明	不明	不明
社会環境	あるが利用していない福祉用具	あるが利用したい福祉用具	単身で可能	不明	不明	不明
個人因子	利用している制度	あるが利用していない制度	あるが利用している公私サービス	住居の状況	住居の状況	住居の状況
会議参加状況	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望
会議参加者	本人 参加	家族 妹、弟	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	両親と3人で生活し、知的通所に通い安定した生活を送ってきたが、両親の高齢化、病気により、家庭での生活が困難になつた。通所施設のある法人で短期入所を利用して生活している。今後も通所したいとの希望をもとに、居住の場を検討する。困難な場合は他の事業所でのケアホームや通所の利用を再検討する。	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望

表17 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:61	地域:丹陽	疾病1	疾病2	疾病3	国籍等:日本	外傷1	外傷2	平成22年4月21日現在	IDNo:2202	
個人因子	脳血管性麻痺(もやもや病)	精神発達遲滞								誤嚥性肺炎で入院し胃ろうを設置	その他	
個人因子	心身機能・身体構造	中度知的障害あり発言がほとんどない。認知症のような感。	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	問題なし				誤嚥性肺炎で入院し胃ろうを設置	その他	
活動能力(できる)	歩行	ADL	家事	職業能力							その他	
活動能力(できる)	不可	リハビリ中だが、全般に介助が必要	妻、ヘルパーが行う	入院前までは作業所での軽作業						不明	その他	
活動能力(できる)	不可	ほぼ全介助	不可	見当識低下しており集中して作業は不可能						不明	その他	
実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動						不明	その他	
実行状況(している)	-	知的通所授産、介護保険のデイサービス	不明	不明						不明	その他	
実行状況(できる)	不可	退院後の身体状況によるため利用可能か不明	不明	不明						不明	その他	
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況						その他特筆すべき物的環境		
物的環境	車いす	不明	不明	一戸建て(持ち家)	不明							
個人因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援								
個人因子	妻就労あり、娘やその婚約者による支援が可能	通所事業所での交流等	不明	通所施設やヘルパー、医療機関職員等と交流あり								
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス								
社会環境	身体1級、療育A、障害年金	-	知的通所授産、介護保険	あるが利用していない公私のサービス								
個人因子	(生活観)実現したい生活(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他特記事項								
個人因子	自宅で家族とともに過ごすこと	不明	不明	-								
会議参加状況	本人	家族	私的関係者	保健関係者						福祉関係者		
会議参加者	-	妻、娘の婚約者	-	医療機関MSW						知的通所授産、介護保険サービス、居宅介護、福祉用具事業者、相談支援、福祉課		
会議開催の理由・背景					会議開催による改善点及び残された課題と展望							
会議検討事項・結果					知的通所授産、介護保険デイサービス、ヘルパーを利用しながら生活していたが、誤嚥性肺炎により入院し、胃ろうを設置した。身体能力も低下しており、これまでの支障について検討。介護保険の利用は通所授産施設での利用が可能か施設側で過ごせるよう住宅改修を行うこととなつた。							

表18 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2203

平成22年4月27日現在

上部: 3		地域: 不冒川		国籍等: 日本		平成22年4月27日現在	
健	脳性まひ	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
心身機能・身体構造	そくわん症	難治性てんかん	運動機能	視覚・聴覚	その他	てんかん発作が頻回	
精神機能	精神機能	精神機能	運動機能	吸引、酸素、経換気装置	その他	不明	
最重度知的障害あり	不明	不明	不明	職業能力	その他	不明	
歩行	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	不明	
実行状況(している)	不可	全身の筋肉直が高い	児童のため本人は行っていない	幼児のため未獲得	その他	不明	
能力(できる)	不可	幼児のため未獲得	児童のため本人は行っていない	幼児のため未獲得	その他	不明	
一般就労・就学	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	不明	
実行状況(している)	未就学	なし	不明	不明	その他	不明	
能力(できる)	未就学	未就学	不明	不明	その他	不明	
物的環境	警官栄養、在宅酸素	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき物的環境	不明	
警官栄養、在宅酸素	不明	あれば利用したい福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき物的環境	不明	
家族の支援	家族の支援	友人ととの交流・支援	近隣との交流・支援	持ち家	不明		
母親がほぼ付き切りで介護	母親がほぼ付き切りで介護	母子通園施設に1回登園	関係者との交流・支援	持ち家	不明		
母的環境	母的環境	母子通園施設に1回登園	近隣との交流・支援	ボランティア等の交流・支援	ボランティア等の交流・支援	不明	
利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	あるが利用していない制度	あるが利用していない公私のサービス	あるが利用していない公私とのサービス	あつたら利用したい制度	
社会環境	身体1級、療育A	不明	不明	訪問看護、訪問リハビリ、母子通園施設	短期入所、児童デイサービス	不妥定	
(生活観)実現したい生活	(生活観)大事にしていること	独自の生活習慣等	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	
個人因子	不明	不明	不明	退院して1週間もせずに再入院	退院して1週間もせずに再入院	不明	
会議開催の理由・背景	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	
会議参加状況	-	母親	-	訪問看護、訪問リハビリ、病院SW	保健センター	母子通園施設、相談支援(4)、福祉課	
会議の検討事項・結果	本人を含めた3人の育児・介護について母の心理的・身体的な負担が大きい。本人は医療ケアが必要な状態。福祉サービスの利用の可否を含め医療サービスと組み合わせて、母の負担軽減を目的に支援ができないか検討したい。	会議開催による改善点及び残された課題と展望	母親と早期のショートステイの利用は難しい状況であることを確認し、今後はヘルパーなどによる家庭内での支援の拡充と児童デイサービスの利用を目標に、本兒の体調の安定を待つこととなった。				

表19 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:17	地域:丹陽	国籍等:日本	平成22年4月27日現在	ID№2204		
生活機能因子	環境因子	個人因子	社会環境	物的環境	参 加 能 力 (できる)	実行状況(している)	心身機能・身体構造	精神発達遲滞
精神発達遅滞	精神発達遅滞	ADHD疑	ADHD疑	疾患1	疾患2	疾患3	疾患1	外傷1
心身機能・身体構造	心身機能・身体構造	精神機能	精神機能	運動機能	運動機能	視覚・聴覚	問題なし	外傷2
活動	実行状況(している)	幼少期の虐待の影響あり。軽度知的障害あり。	幼少期の虐待の影響あり。軽度知的障害あり。	歩行	歩行	問題なし	問題なし	その他
活動	実行状況(している)	可	可	自立	自立	問題なし	問題なし	家庭内で問題行動があり。現在精神科に入院中
活動	実行状況(している)	可	可	自立	自立	問題なし	問題なし	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	ADL	ADL	家事	家事	その他
参 加	実行状況(している)	-	-	母が行う	母が行う	職業能力	職業能力	家庭内での問題行動があり。現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	お手伝い等は可能	お手伝い等は可能	作業等は可能	作業等は可能	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	福祉施設等の利用	福祉施設等の利用	趣味等	趣味等	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	-	-	地域活動	地域活動	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	テレビ ゲーム	テレビ ゲーム	不明	不明	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	就労系サービスの利用は可能	就労系サービスの利用は可能	じっとしていることが嫌い	じっとしていることが嫌い	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	あるが利用していない福祉用具	あるが利用していない福祉用具	不明	不明	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	あるいは利用したい福祉用具	あるいは利用したい福祉用具	住居の状況	住居の状況	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	-	-	集合住宅(賃貸)	集合住宅(賃貸)	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	友人との交流・支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	近隣との交流・支援	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	義父、母、弟、妹(乳児)と同居、家族関係が不安定	義父、母、弟、妹(乳児)と同居、家族関係が不安定	悪友との交流あり	悪友との交流あり	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	あるが利用していない制度	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	-	-	精神科病院に入院中	精神科病院に入院中	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	(生活観)実現したい生活	(生活観)大事にしていること	独自の生活習慣等	独自の生活習慣等	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	仕事をして収入を得たい	仕事をして収入を得たい	幼児が好きでつきまとつてしまうことがある	幼児が好きでつきまとつてしまうことがある	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	家族	家族	医療関係者	医療関係者	現在精神科に入院中
参 加	実行状況(している)	-	-	私的関係者	私的関係者	保健関係者	保健関係者	現在精神科に入院中
会議参加状況	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望						
会議参加状況	家庭内で弟や妹への暴力があり、精神科に一時入院となつた。家庭内の問題解決の方法や退院後の支援内容を検討し、本人の希望する生活が実現できるように支援方法を検討する	就労についてには就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係に						

表20 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別：男		年齢：17	地域：西成	国籍等：日本	平成22年5月19日現在	IDNo.2205
障害	精神発達遅滞	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動	中度知的障害あり、判断能力に遅れがある	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	職業能力	その他
能力(できる)	可	自立	児童施設入所中、洗濯や掃除等は行う	養護学校高等部3年生、一般就労に向け実習中	養護学校高等部3年生、一般就労に向け実習中	その他
参加	一般就労・就学	自立	支援があれば可能	支援があれば可能	支援があれば可能	その他
能力(できる)	養護学校高等部3年生	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	地域活動	その他
物的環境	養護学校高等部3年生	児童養護施設入所	サッカー	不明	不明	その他
人的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
社会環境	物的環境	可	可	不明	不明	市内に自宅あり、両親居住でしない
個人因子	父DVあり(実際は不明)、母知的障害疑い、もやもや病あり	友人ととの交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	自宅での生活は本人望ん
会議参加者	社会環境	学校や施設での交流あり	不明	先生や施設職員等との関係は良好	先生や施設職員等との関係は良好	ドランティア等の他の人の交流・支援
会議の検討事項・結果	個人因子	利用している制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス
	会議開催の理由・背景	(生活観)実現したい生活(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	会議開催による改善点及び残された課題と展望	就職してグループホームで生活したい	不明	不明	不明	会議開催による改善点及び残された課題と展望
		本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者
		-	-	-	-	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、ケアホーム事業所、相談支援(5)、福祉課

養護学校卒業に伴い児童養護施設も退所となるが、家庭基盤が不安定で自宅で自家人に説明し、一般就労めざし取り組むとともに、生活の場をどのようにするか、本人、家族の希望をもとに関係者で支援。

表21 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:27	地域:西成	国籍等:日本	平成22年6月1日現在	IDNo.2206	
生活機能	障害	疾患1	疾患2	疾患3	外傷1	外傷2	
心身機能・身体構造	精神発達遅滞	自閉症			-	精神科通院	
実行状況(している)	可	精神機能	運動機能	視覚・触覚	その他	その他	
活動能力(できる)	可	重度知的障害あり	問題なし	問題なし	-	-	
実行状況(している)	可	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	
活動能力(できる)	可	ほぼ自立	母、ヘルパーが行う	通所更生施設で作業を行っている	落ち着きなく絶えず動いている	指示・誘導で安定する	
実行状況(している)	可	入浴は母の制限がありしれない方が可能	不明、支援があれはできる	簡単な作業等、支援があれば可能	経験なく不可	-	
物的環境	一般就労・就学	福祉施設等の利用	こともあると思われる	地域活動	その他	-	
個人因子	知的通所更生施設、短期入所	利用は安定して可能	不明	-	-	-	
環境的因素	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれは利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物理的環境	-	
社会環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	一戸建て(持ち家)	-	-	
会議参加状況	母は「ベニツク障害で外出できない。他協力的な家族ではない。	通所施設での交流等	通所先職員や相談支援等の交流	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人の支援・支援	-	
会議参加者	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス	-	
会議開催の理由・背景		療育A、障害基礎年金1級	知的通所更生施設、短期入所、移動支援、福祉有償運送	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-	
(生活観)実現したい生活		(価値観)大事にしていること	、独自の生活習慣等	作業所通所に多額な実費負担	保健関係者	福祉関係者	
会議の検討事項・結果		個人因子	変化のない生活パターン	手指のガーゼ交換	保健所精神保健福祉相談員	知的通所更生施設、短期入所(2)、社協(日常生活自立支援事業)、相談支援(4)、福祉課	
会議開催による改善点及び残された課題と展望		会議開催	会議開催	会議開催	会議開催	会議開催	
会議の検討事項・結果		不安神経症にて自宅で一人でいられない、外出ができない等の状況にある母親(精神3級)と2人暮らし。短期入所を利用するも定員の都合で帰宅。母親側に施設への不満ががあり再利用が延期になつてはいるがベニツク発作の心配は軽減し居宅支援サービスを減量した。以前に変わらず同居による不満はあるものの、それを利用事業所等に表現しつつ日々は過ごすことができている。経済状況は厳しいものがあるが、母親の管理で何とか暮らせている。	母の伯母が同居するようになり、1年余り前と同様の生活が戻っている。母の伯母が居るごとににより母のベニツク発作の心配は軽減し居宅支援サービスを減量した。以前に変わらず同居の現在の暮らしを維持していくことは困難であり、今後の生活について対策を検討する				

表22 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 15	地域: 大和	国籍等: 日本	平成22年6月16日現在	IDNo.2207	
障害度		疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
心身機能・身体構造	精神発達遅滞	-	-	-	面示、小指関節欠損	-	-
活動能力(できる)	歩行	精神機能 軽度知能障害、児童でもあり判断能力は十分ではなし、	運動機能 問題なし	不明	視覚、聴覚	その他	その他
実行状況(している)	可	自立	ADL	家事	職業能力	その他	その他
参加能力(できる)	可	自立	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	本人活動「なごみの会」に参加	その他
実行状況(している)	養護学校高等部1年生	一般就労・就学	福祉施設等の利用	不明	隣人男性が親代わりの交流	本人は暮つている	誘われると参加
物的環境	安定して通学できる	好まない	支援があれば可	支援があれば可	隣人男性が親代わりの交流	本人は暮つている	他の特筆すべき物的環境
環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あるいは利用したい福祉用具	古い長屋	住居の状況	本人は暮つている	両親不在で年齢に見合う物的環境を準備する人がいない
個人的因素	-	-	-	-	-	-	ボランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	家族の支援	友人ととの交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	学校や相談支援などの関係者あり	学校や相談支援などの関係者あり	ボランティア等その他の人的交流・支援
会議参加状況	幼少期に両親は家出、認知症傾向のある祖母と2人暮らしだ	学校等では特に親しい友人ではない様子	隣人男性が親代わりのような役割	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	未成年後見の検討が必要	さまざまな機関から支援者が関わるようになり、本児及び隣人にもストレスになつてしたり、他人の言動に過敏になつている様子もある。この点について隣人の方の話している内容や考え方も先入見として影響している部分があるように思われる関わりが難しい
会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		会議開催による改善点及び残された課題と展望		会議開催による改善点及び残された課題と展望	
会議の検討事項結果		幼稚期に両親が家出をし、77歳の祖母と二人暮らし。近隣の方の草意で生活面を支えてもらっているが、現状のまままで良いのか関係者で集まり情報共有し検討		さまざまな機関から支援者が関わるようになり、本児及び隣人にもストレスになつてたり、他人の言動に過敏になつている様子もある。この点について隣人の方の話している内容や考え方も先入見として影響している部分があるように思われる関わりが難しい		会議開催による改善点及び残された課題と展望	

表23 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

表25 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:17	地域:丹陽	国籍等:日本	IDNo.2210
精神発達遅滞		疾病1	疾病2	疾病3	平成22年6月30日現在
心身機能・身体構造		運動機能	視覚・聴覚	外傷1	外傷2
活動実行状況(している)	精神機能	問題なし	視力に左右ばらつきある が問題なし	-	-
活動実行状況(できる)	歩行	ADL ほぼ自立	施設入所中で、掃除や洗濯等は行う 十分には出来ないため支援が必要	一般就労目指し学校で実習を受けている 細かい作業は苦手	職業能力
参加能力(できる)	日常生活能	保清など不十分	福祉施設等の利用	趣味等	その他
参加能力(できる)	養護学校高等部3年生	児童養護施設入所	携帯ゲーム	地域活動	その他
物的環境	登校は問題なく出来ている	トラブルなく生活できている	長時間行うなど適切にはできない	不明	その他特筆すべき物的環境
環境的因素	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あるが利用したい福祉用具	住居の状況	児童養護施設入所、実家は市外で両親が居住する環境が整っていない、ボランティア等その他の人間交流・支援
社会環境	家族の支援	友人ととの交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	実家は孤児家庭が生活で大人の支援者との関係は好んで作ろうとする ボランティア等その他の人間交流・支援
個人因子	両親は市外に居住、母精神疾患あり。妹が同施設に入所	学校や施設ではあまり交流せずおとなしい	不明	あるが利用している公私のサービスがあるが利用していない	あつたら利用したい制度・サービス
会議参加状況	療育C	-	児童養護施設入所中	-	会議開催による改善点及び残された課題と展望
会議参加者	(生活観)実現したい生活 両親との同居または両親の近くで生活したい	(面倒見)大事にしていること 両親の不明	独自の生活習慣等 -	未解決の生活上の問題 不明	その他の特記事項
会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望			
母の精神疾患や居住環境の問題か施設で生活しているが、養護学校卒業とともに施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討		両親が転居により環境的には家族での生活が可能との報告もあり、本人と両親の希望に沿った環境で生活し就労して収入を得られるよう、選択が行なえるよう、グループホーム等の見学や、就労地域の検討を行なっていくことになった。			

表27、国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:51	地域:栃木	国籍:日本	平成22年7月6日現在	IDNo.2212
疾患	精神発達遅滞	疾病1 疾病2 疾病3	-	外傷1 外傷2	-	その他
心身機能・身体構造	重度知的障害があり、判断能力に遅れがある	運動機能 左上下肢麻痺	視覚・聴覚 問題なし	-	-	その他
活動実行状況(している) 能力(できる)	歩行 可能だが支えが必要 可能だが介助が必要	ADL ほぼ全介助 ほぼ全介助	家事 ヘルパーが行う できない	脚業能力 半年前まで作業所にて軽作業を行う 支援があれば軽作業は可能	-	その他
実行状況(している) 能力(できる)	一般就労・就学 -	福祉施設等の利用 生活介護事業所	趣味等 不明	地域活動 不可	-	その他
物的環境	シャワーチェア・バスボード 浴室の住宅改修	あるが利用していない福祉用具 可	あれば利用したい福祉用具 不明	住居の状況 不可	-	その他特筆すべき物的環境
環境的人的環境因子	家族の支援 高齢の父親と2人暮らし 父親が暴力を振るうことがある	友人との交流・支援 生活介護事業所で他の利用者と交流	近隣との交流・支援 あり	関係者との交流・支援 福祉関係者との関係は良好 父の親の友人による支援を受けている	-	ボランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	利用している制度 身体3級、療育A	あるが利用していない制度 (生活観)実現したい生活 (価値観)大事にしていること	利用している公私のサービス 生活介護・身体介護・家事援助・短期入所 不明	あるが利用していない公私のサービス あるが飲酒した際の本人への暴力行為 未解決の生活上の問題 不明	-	あつたら利用したい制度・サービス 父の親が飲酒した際の本人への暴力行為 未解決の生活上の問題 不明
個人因子	自宅で生活し続けたい	不明	独りの生活習慣等	父の親が飲酒した際の本人への暴力行為 未解決の生活上の問題 その他特記事項	-	父の親が飲酒した際の本人への暴力行為 未解決の生活上の問題 その他特記事項
会議参加状況	本人 -	家族 父親	私的関係者 父の親の友人	保健関係者 -	福祉関係者 アマネージャー・居宅介護・相談支援	地域包括支援センター・ケ
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望				
		父親には本人のADLが以前より低下していることを理解してもらいたい、暴力を振るわないようにしてもらう。また、居宅介護事業所にはコミュニケーションを取る際にジエスチャーを交えて分かりやすく接してもらおう。父の親から友人に緊急時の連絡があつた場合は友人から関係機関に連絡をしてもらうように依頼をする。				

表28 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2213

性別:男 年齢:47		地域:浅井		国籍等:日本		平成22年7月12日現在	
障害	精神発達遅滞	疾病1	疾病2	疾患3	外傷1	外傷2	その他
心身機能・身体構造	精神機能 不安や不満が解消されるまで訴えが続く 中度知的障害あり	運動機能	視覚・聴覚	その他	-	-	精神科病院に入院中
活動実行状況(している)	単独で可能 歩行	ADL	家事	職業能力	-	-	その他
活動能力(できる)	単独で可能 自立	本人:たまにちよこっとやる。妹:全くできない、支援者の声掛けが必要	本人:街で歩ければ駐車は可能、不安事有ると中断する	吃音あり	しない	不明	不明
実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	-	-	その他
参加能力(できる)	-	-	買物	-	-	-	不明
物的環境	作業所の通所経験あり	あるが利用していない福祉用具	必要なものでなく欲しい物を購入	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特記すべき物理的環境	不明
環境因子	利用している福祉用具	-	-	-	一戸建て	-	不明
個人因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人との交流・支援	-	-
背景因子	妹が本人からの不安の電話に応じている	友達は欲しいが、相手の気持ちや状態を察する事ができない	近所の人には話しかけられるのが嫌	初対面でも拒否はない、	利用している公私サービス	あるが利用していない公私サービス	あつら利用したい制度・サービス
会議参加状況	社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	居宅介護	短期入所(調子を崩し、体験が出来なかつた)、ケアホーム	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
会議参加者	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-	-
会議の検討事項・結果	個人因子	自宅に帰る事	不安なことがあると妹に電話する	不安や不満の解消方法の獲得	-	-	-
	本人	家族	私的関係者	保健関係者	福祉関係者	生活介護、ケアホーム、相談支援、福祉課	
	-	妹	-	精神科Dr.PSW、精神科デイケア	-	-	
	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望					
	本人は「家に帰りたい」と望んでいるが、どのような生活が送りたいかのイメージは全くない。退院後、独居の生活をどのように支えたらいいのか、妹に負担が掛りすぎない支援方法を検討したい。	生活介護や短期入所の体験を通じて、本人が利用してもいいと思えるサービスを探す。日常生活の中で出てきた不安や不満を解消するための相談方法を、入院中に本人が身につけるように支援していく。どこまでの状態になつたら地域生活ができると判断するのかが今後の課題。					

表29 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

		性別:男	年齢:19	地域:西萩原	国籍等:日本	平成22年8月30日現在	IDNo.2214	
重症心身障害	疾病1	脳性麻痺	疾病2	精神発達遅滞	褥瘡	外傷1 外傷2	その他	
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	頻繁に閉塞呼吸が出現し、バギングが必要となる		
実行状況(している) 能力(できる)	歩行	四肢麻痺 体幹機能障害	問題なし	胃嚙	その他	その他		
実行状況(している) 能力(できる)	不可能	全介助	家族が行う	入院中	職業能力	その他		
実行状況(している) 能力(できる)	不可能	全介助	不可能	不可能	不明	不明		
物的環境	一般就労 就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他		
環境的人的因素	養護学校卒業後入院	短期入所	DVD鑑賞	-	不明	不明		
社会環境	能力(できる)	-	DVD鑑賞	-	不明	不明		
個人因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき物的環境	その他特筆すべき物的環境		
会議参加者	ベッド、オムツ、車椅子、座位保持装置、吸引器	-	-	-	一戸建て(持ち家)	-		
会議参加状況	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人の交流・支援	ボランティア等その他の人の交流・支援		
会議検討事項・結果	主に母が介護 父は不規則勤務	-	近隣に親戚が複数あるが、あまり交流はない	桜の木福祉社会との関係は良好	あつたら利用しない私のサービス	あつたら利用しない制度サービス		
会議開催の理由・背景	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない私のサービス	あつたら利用しない制度サービス	あつたら利用しない制度サービス		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	介護	介護	訪問看護 移動入浴	-	介護	介護		
会議開催の理由・背景	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他他の特記事項	その他他の特記事項		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	個人因子	自宅で家族と生活していくたい、	不明	胃嚙、痰吸引、呼吸管理など の医療的ケアの頻度が高い、	家族以外の人から十分な 医療的ケアを受けられない、	医療的ケアのできる居宅		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	-	母	-	医療機関SW 担当看護師 訪問看護	-	重心通園事業所 訪問入浴事業者 福祉課 支援		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景		
会議開催による改善点及び残された課題と展望	障害が重く、医療的ケアの頻度も高いため、学校卒業後、地域の支援体制が整わらず、入院生活が続いている。退院後に家族の介護負担を軽減し、地域での生活ができるよう支援体制を整えるための話し合いを行う。							

表30 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:68	地域:西成	国籍等:日本	平成22年7月9日現在	IDNo.2215
健常	疾患1 統合失調症	疾病2	疾病3 糖尿病	外傷1	外傷2	その他
心身機能・身体構造	精神機能 精神的に不安定である	運動機能 夕方になると体が重くなり、動かない、	視覚・聴覚 問題なし	その他	精神科通院	その他
活動実行状況(している)	歩行 可	ADL ほぼ自立	家事 本人が行う	職業能力 ~	~	その他
活動能力(できる)	可	可能だが見守り要 一般就労・就学	福祉施設等の利用 趣味等	夕方は体調が悪くできない 簡単な作業であれば可	~	~
参加実行状況(している)	~	~	喫茶店に行く	地域活動 不明	地域活動 不明	その他
参加能力(できる)	不明	利用している福祉用具 可	あれば利用したい福祉用具 体調が良ければ可	住居の状況 不明	住居の状況 不明	その他特筆すべき物的環境
物的環境	~	あるが利用していない福祉用具 ~	あれば利用したい福祉用具 ~	~	~	~
環境因子	家族の支援 独居 精神2級	友人との交流・支援 買い物等を支援してもらう ~	近隣との交流・支援 不明	関係者との交流・支援 訪問看護師・包括支援センター	シロアリが多く、大家から退去を求められている ボランティア等その他の人の交流・支援	~
人的情境	妹・長男が東京に在住のため受けられない、 (価値観)大事にしていること	あるが利用していない制度 制度	利用している公私サービス あるが利用していない公私サービス	あるが利用していない公私サービス 訪問看護1回／週 24時間対応の電話相談	あつたら利用したい制度・サービス 介護保険非該当と認定 不明	~
社会環境	(生活観)実現したい生活 施設入所がしたい	独自の生活習慣等 不明	独自の生活習慣等 未解決の生活上の問題	未解決の生活上の問題 单身で生活することの大変が大きい	~	その他特記事項
個人因子	家族 MSW	私的関係者 ~	私的関係者 ~	保健関係者 福社関係者	~	包括支援センター・相談支援
会議参加状況	本人 ~	~	~	会議開催による改善点及び残された課題と展望	~	~
会議参加者	会議開催の理由・背景 自身生活を送っていたが、精神疾患を原因とする体調不良を訴え、施設入所を強く希望している。しかし、介護保険の認定は非該当となり、入所することはできない。本人は精神的負担を感じ6月下旬入院するが、退院後の在宅生活に対する支援を検討したい。	~	~	~	~	介護保険の要介護認定再認定と障害程度区分の認定のための申請を各機関で行い、利用できるサービス内容をしきアプロンを作成する。

表31 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:65	地域:浅井	国籍等:日本	平成22年7月22日現在	IDNo.2216
疾病	疾病1 僧帽弁狭窄症による心臓機能障害	疾病2 -	疾病3 -	外傷1 -	外傷2 -	その他 その他
心身機能・身体構造	精神機能 精神的に不安定になりやすすい	運動機能 ふらつき・めまいあり	視覚・聴覚 問題なし	問題なし	-	循環器科 内科通院 その他
実行状況(している) 能力(できる)	杖を使用しゆつくり移動するが見守りが必要 数センチの段差でもまづく	ADL 歩行	家事 掃除・買い物はヘルパーが行う	職業能力 高齢のためなし	-	その他
実行状況(している) 能力(できる)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	簡単なものは調理可能 趣味等	不明	-	その他
参加	-	-	不明	町内の行事には参加	-	その他
物的環境	介護保険にて住宅改修を実施予定	利用経験あるが2ヶ月で中止	あるが利用していない福祉用具 があれば利用したい福祉用具	鑑賞する行事には参加できる	-	その他
環境 人的環境	家族の支援 独居 長女が名古屋市在住	友人との交流・支援 ほんどなし	近隣との交流・支援 民生委員や近所の方との交流あり	住居の状況 市営住宅	-	他の特筆すべき物的環境 ボランティア等その他の人の交流・支援 良好
社会環境	身体1級 基礎年金2級 生活保護	あるが利用していない制度 あるが利用している制度	利用している公私のサービス 通院介助 介護予防訪問介護	関係者との交流・支援 支授者との関係は概ね良好	-	あるが利用していない公私のサービス あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	(生活観)実現したい生活 在宅での安定した生活	(価値観)大事にしていること 不明	独自の生活習慣等 未解決の生活上の問題	支援者に対する依存的である	-	他の特記事項
会議 検討 事項・結果 会議 参加 状況	本人 あり	家族 -	私的関係者 医療関係者 保健関係者 福社関係者 訪問介護・居宅介護・福祉用具業者・包括支援センター・相談支援	会議開催による改善点及び残された課題と展望 介護保険サービスの利用に円滑に移行ができるよう情報を共有する。特に、心臓疾患があるので健康面での観察は気をつけよう。また、支援者に対して依存傾向があるため、本人の自立を妨げないような支援を心がけていく。	-	会議開催による改善点及び残された課題と展望 介護保険への移行により、支援機関の引き継ぎとサービス提供機関との情報共有・支援方法について検討する

表32 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:26	地域:千秋	国籍等:日本	平成22年8月18日現在	IDNo.2217
障害	疾患1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
PKC(神経系の疾患)	精神発達遲滞	-	-	-	-	神経内科通院
心身機能・身体構造	軽度知的障害あり。すぐかつとなる	問題なし	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	不明	家にずっといるのがいや
活動能力(できる)	可	自立	不明	不明	不明	不明
実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	不明	その他
参加能力(できる)	仕事したいが見つからない	-	不明	不明	不明	不明
物的環境	豊田の下請け・老健など仕事につくが長続きしない、利用している福祉用具	支援があれば可能	不明	不明	不明	不明
環境因子	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき物的環境	不明
人的情境	-	-	-	一戸建て	不明	不明
社会環境	家族の支援	友人ととの交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人の交流・支援	ボランティア等その他の人の交流・支援
個人因子	実母からの虐待経験あり。継母との折り合い悪く父は母の見方	不明	不明	就労支援者との交流あり	不明	あつたら利用しない公私サービス
背景因子	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私サービス	あるが利用していない公私サービス	就労継続支援	就労継続支援
会議参加状況	個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他特記事項
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望					
検討事項・結果	障害者雇用で、岩倉の老健で勤めていたが、通勤途中自転車の前から財布盗みつかまつた。仕事も解雇され、自宅で謹慎中だが継母との関係よくないため、今後の就労先、生活の場の確保を検討	本人の感情が不安定のため、精神科に定期的な通院を行い、カウンセリングを受けてみる。それで問題行動が修まるかが課題。一般就労は難しいと思われるで、就労継続の見学を行う。				

表33 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:19	地域:北方	国籍:日本	IDNo.2218 平成22年9月6日現在
精神発達遅滞	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
精神機能	気分障害(精神科受診)	-	-	-	髪の毛むしり、吐き気や失禁。吐き気はかかりつけ医に受診
心身機能・身体構造	開拓校での人間関係のストレスによる自殺行為、嘔吐や失禁有り	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動能力(できる)	歩行	ADL	家事	職業能力	髪の毛むしり、吐き気や失禁。吐き気はかかりつけ医に受診
実行状況(している)	可	自立	時々…弁当を作り、洗濯取り込みたたみ、おつかい	手先は器用で理解力もあるが、在宅生活の長さから忍耐力がな	その他
参加能力(できる)	可	自立	弁当を作り、洗濯取り込みたたみ、おつかいは習慣化されれば毎日可能	開拓校での人間関係のストレスから通えない人が多いことから見て、職業能力は身につかない。	その他
実行状況(している)	就労していない。	福祉施設等の利用	アイドルのCD・DVD観賞。化粧。	参加してしない	その他
能力(できる)	就労経験なし。現状では就労不可能	趣味等	自発的に楽しみを見つけるが、家庭の事情で本人の意思で実行できない。	地域活動	その他
参加	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	人の目が気になりできない。	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
物的環境	-	-	-	古い借家。猫を室内で数匹飼っている。トイレと風呂は家の外に設置。室内一人で入浴できない時がある。	夏場風呂にギブリが出るため、ほどほどに片付いている。
環境的人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	他の人の人的交流・支援
因子	母は特殊学校在籍者有(手帳無)。理解力も乏しく(本人に頼ることが多い。本人を心配しているが、支援が期待できない)。	訓練校での友人は少ないがいる。父(離婚)方のひとと仲が良い。	近隣との付き合いはない。	開拓校や就業・生活支援センターと良好な関係、通院先は不明。	ボランティア等
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	あるが利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	療育C	就業・生活支援センター、職業開拓校。	今すぐではないが将来グループホーム利用本人希望有	日常生活自立支援事業(母が金銭に関して)	他の特記事項
会議参加状況	(生活観)実現したい生活	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	未解決の生活上の問題	会議開催による改善点及び残された課題と展望
	開拓校を卒業し、就職したい。	髪の毛むしり、吐き気や失禁。精神科以外に通院する回数が多い。	髪の毛むしり、吐き気や失禁。精神科を独占したいと求めても、母親を独占したいと求めても、母親の言動や金銭管理に不満がある。	母親を独占したいと求めても、母親の言動や金銭管理に不満がある。	会議開催による改善点及び残された課題と展望
	本人	家族	私的関係者	保健関係者	会議開催による改善点及び残された課題と展望
	不参加	不参加	精神科PSW	職業開拓校、就業・生活支援センター	会議開催による改善点及び残された課題と展望
			会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望
会議検討結果	人間関係のストレスから開拓校に通えない日が増えており、開拓校・家族や就業・生活支援センターで送り出しの支援を行なうも、通えない日が続いている。開拓校・母子・就業・生活支援センターで面談を教習し本人のモチベーションを上げるために小遣いの管理することも約束した。8月下旬に嘔吐や失禁があると母親から相談があり、母親が外部に相談しない事から解決が困難。その為に本人がSOSを出しやすい支援機関との連携を行なう。	開拓校に通えない要因として、生活の変化・学校での対人関係の戸惑い・母の借金(母が本人に相談する為のストレス)等関係機関で情報を共有。胃カメラ検査の結果を持ちDの所見を確認し、開拓校に通える支援を維持する。母親の金銭管理の不十分さ故の母親の愚痴がストレスとなる事は課題として認めた。病院で胃カメラ検査を行う予定。「就職したい」と本人は希望しているが現実的でない為、本人の希望をかなえるため関係機関で集まり今後の支援方針を確認する。			会議開催による改善点及び残された課題と展望

表34 國際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 51	地域: 旧尾西	国籍等: 日本	平成22年9月15日現在	IDNo.2219
障 害 状 態	精神発達遅滞	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
心身機能・身体構造	重度知的障害 情緒は安定している	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
実行状況(している) 活動能力(できる)	歩行 可	自立	高齢の母の手伝いもある程度できる	洗濯ものの片付け、皿洗いなどをやっていく	就労継続支援利用 不明	その他
実行状況(している) 参加能力(できる)	一般就労・就学 母と同じ職場で一般就労をしていった経験あり 支援があれば可能	就労継続支援事業 福祉施設等の利用	趣味等 不明	作業能力は高い	作業能力 不明	その他
物的環境	利用している福祉用具	就労継続支援事業継続	テレビ鑑賞	興味のある地域活動に参加することは可能	地域活動 不明	その他
環境因子	家族の支援	あるが利用していない福祉用具	テレビ鑑賞	住居の状況	市営住宅 母と二人で生活しているが、姉が入り込むことで問題が生じてきた	その他の特筆すべき物的環境
社会環境	高齢の母は本音の援助がなけれ ば生活できない、姉から虐待を受けている	あるいは利用したい福祉用具	あれば利用したい福祉用具	市営住宅 母と二人で生活しているが、姉が入り込むことで問題が生じたが、姉が入り込むことで問題が生じた	途中同居の姉より食事を取りあげられるなどの虐待を受けている	虐待からの特筆すべき物的環境
個人因子	利用している制度	あるが利用していない制度	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人との交流・支援	ボランティア等その他の人との交流・支援
背景因子	(生活観)実現したい生活	利用している公私のサービス	母のケアマネのみ家に出入りできている	母のケアマネのみ家に出入りできている	あるが利用していない公私サービス	あつたら利用したい制度・サービス
会議参加状況	日中は通所サービスを利用しながら母と生活したい	母と暮らすこと	不明	姉からの虐待に対処できない	障害者虐待に応える制度	障害者虐待に応える制度
会議開催の理由・背景		未解決の生活上の問題		その他の特記事項		
会議参加者	本人	家族	私的関係者 医療関係者	保健関係者	ケアマネ 生活介護事業所 福祉課 相談支援	ケアマネ 生活介護事業所 福祉課 相談支援
会議開催による改善点及び残された課題と展望		長女からの虐待から、福祉サービスの利用を開始した。本者は、新しく行う取り組みや仲間との出会いに徐々に良い表情を見せてくれるようになってきたが、その後、新たに次女が家庭に入り込んできたことで、新たな虐待が始まった。現在、次女により福祉サービスの利用も止められている状況。今後の対応について関係者で協議を行う。				
会議開催事項・結果		虐待からの救出方法を協議 母親の意向を確認後、本人と母の救出方法について再度関係者を招集し検討する。短期入所事業所の協力 地域包括支援センターの協力を要請				